

# 日本体育大学大学院

## 令和 8 年度入学者選抜【出題の意図・解答又は解答例等】

研究科・課程	保健医療学研究科・博士課程
コース	救急災害医療学専攻
実施期	I 期試験
試験科目	筆記試験（専門科目）

### 【出題の意図】

博士課程の専門科目試験としてふさわしい水準を保ちつつ、受験者の理解力・実務経験・研究志向を多面的に評価することを目的として作成した。

総務省消防庁では令和 7 年 3 月、「救急業務の DX 推進に係る消防本部担当者向け技術カタログ」を公表した。この設問は、近年急速に進む救急業務のデジタル化 (DX) に関する理解と、それに対する批判的思考力と応用力を問うことを目的としている。救急現場での ICT 活用 (マイナンバー連携、電子カルテ、搬送支援 AI 等) は、救命率の向上・業務効率化・連携強化などの可能性を秘めている一方、個人情報保護、導入コスト、操作性、教育格差など多くの課題も存在する。

博士課程の学生には、技術革新を単に歓迎するだけでなく、社会的・倫理的・実務的側面から多角的に分析し、現場適用に向けた実証的アプローチを構想する能力が求められる。この設問を通じて、テクノロジーと現場のギャップを埋める研究姿勢を評価する。

### 【解答例】

現在、救急業務の DX は、現場の効率化と質の向上を目的に推進されており、マイナンバーカードの活用による医療情報の即時取得や、AI を用いた搬送先選定などが検討されている。これにより、救急隊員は傷病者の既往歴や服薬情報を即時に把握し、より適切な医療機関選定や処置判断が可能となる。また、医療機関側も患者情報を事前に受け取ることで、受け入れ準備を迅速に行える利点がある。

一方で、いくつかの課題も想定される。第一に、情報セキュリティの確保である。個人医療情報の取り扱いには厳格な管理が求められ、サイバー攻撃や漏洩への対策が不可欠である。第二に、システムの操作性や機器トラブルが現場業務を妨げるリスクもある。さらに、高齢者や外国人などマイナンバーカード未所持者への対応も課題である。加えて、地方と都市部での導入格差や、救急隊員への教育体制整備も求められる。

これらの課題を乗り越えるためには、技術と制度の両輪による慎重な導入が必要である。現場の声を反映しながら、小規模な実証を重ね、安全性と有効性を科学的に検証することが重要である。また、プライバシーへの配慮と社会的理解を促進する啓発活動も並行して行うべきである。救急 DX は、現場の支援と患者の命を守る新たな基盤となる可能性を秘めている。(794 字)